

6

ゼーゼー、ヒューヒュー

赤ちゃんの「のど」や「胸の奥」からゼーゼー、ヒューヒューと音が聞こえることがあります。これは気道（空気の通り道）がせまくなったり、痰（たん）がたまったりすることでおこります。程度が強いと息苦しくなることがあるので注意が必要です。

■「息苦しい」といえない赤ちゃんのSOSサイン ■

咳のために眠れない、母乳やミルクが飲めない、咳き込んで吐いてしまう。このようなときは早めにかかりつけ医に受診しましょう。

『せんてんせいこうとうなんかしょう先天性喉頭軟化症』

赤ちゃんには生まれつきゼーゼーいいやすい人がいます。たまに音がするくらいで機嫌もよければ様子を見てもよいと思いますが、「いつも」ゼーゼー、ヒューヒュー音がきこえるというときは、生まれつき気道が狭かったり軟らかすぎたりする病気がかくれていることがあります。気になるときはかかりつけ医に相談しましょう。

『クループ』

急に犬が吠えるような「ケンケン」といった変な咳が出て、声がかれることがあります。このときにもヒューヒュー音がきこえることがあります。クループといつてのどの奥の声帯下の部分が腫れてくる病気です。腫れ方がひどいと窒息^{ちっそく}してしまう危険もあるので、早めに受診して治療を受けましょう。

『^{きかんしぜんそく}気管支喘息』

気管支喘息は、あるきっかけで気道の細い部分が狭くなる病気です。アレルギー体質がある人に起こりやすいですが、感染症や運動をしたとき、大泣き・大笑いをきっかけに症状が悪くなることもあります。急にゼーゼー、ヒューヒューと音がして咳や息苦しさが強くなります。症状が強いときには、気道を広げる治療が必要です。そして大事なのは元気なときにこそ予防対策が必要だということです。気管支喘息の患者さんは、症状がないときにもずっと気道が腫れたり、ちょっと狭くなったりしていることが分かってきたからです。

気管支喘息かもしれないといわれたら、ホコリやたばこの煙を避けましょう。布団のまわりにぬいぐるみを置かないようにしましょう。また喘息予防のお薬を続けたほうがよいお子さんもいます。かかりつけ医と相談しましょう。